



開館記念式典で挨拶される西河監督(2001年9月29日)

【西河克己映画記念館の歩み】  
現在の西河克己映画記念館は、旧塩屋出店の洋館として、昭和10年頃にその裏庭に建てられたもので、その後、子どもたちの文化育成のために教会として利用されていきました。二階建て、切妻造、一部庇(ひさし)がつき、波形の棧瓦葺、下見板張りで窓の額縁を柱型として表すステックスタイル風のしゃれた意匠です。平成12年12月に旧塩屋出店とともに国の登録有形文化財に登録されました。監督から映画制作資料などを町へ寄贈を受けたのを機に、町が西河克

己映画記念館として整備し、平成13年9月29日にオープンした。  
9月27日、28日の2日間はプレイベントとして、吉永小百合主演の「伊豆の踊子」と泉ピン子の「一杯のかけそば」を町総合センターで上映しました。そして、いよいよ29日には東京から監督を迎え「西河克己映画記念館」の開館記念式典を行いました。式典では、多くの関係者が見守る中、監督への感謝状が町長から贈られた後、テープカットが行われ新装なった館内が披露されました。ふ

## 西河監督思い入れの映画記念館

今も多くの来館者

るさつを想つご自身の念願が実現できたことで、満面の笑みを浮かべ本当にうれしそうにされていたこのときの監督の様子、昨日のように感じられてしまいます。

午後からは、会場を総合センターへ移し、「記念講演とトークショー」が行われました。講演では、「幼い頃の夢は画家か小説家だったが、金持ちでないと成れないことを悟り断念、気がついたら映画の世界に」などとユーモアあふれる語り口でお話しされました。また、智頭町在住の岡田千春さんとのトークショーでは、「映画」に対する思いや「絶唱」にまつわる女優の裏話など会場が笑いで盛り上がりしました。

監督の映画人生60年の気持ちが込められているこの記念館。監督がふるさとの想いを馳せられこの記念館に託した願いは「若い人たちに夢を抱いてもらいたい」として「その夢は思い続けることではないか」とも実現することであり、この熱い想いは今も脈々と生き続けておりこれからも引き継がれていくものと思います。



ユーモアのある語り口の西河監督(2001年9月29日)

### 【終わりに】

町として智頭町が生んだこの偉大な映画監督、西河克己さんをしっかりと顕彰し、その功績を未来永劫語り継いで行くことの必要性を強く感じています。来年4月には西河克己監督1周年を偲んだ記念イベントを計画したいと思っておりますので、ご意見などを役場企画課へお寄せいただきますようお願いいたします。

役場企画課

☎0858-17514112

智頭町出身で日本映画の全盛期を支え、智頭もロケ地となった舟木一夫主演の代表作「絶唱」など数多くのヒット作品を生み出した西河克己監督が4月6日にお亡くなりになりました。  
西河監督を偲ぶ会が、吉永小百合さん、三浦友和さん、渡哲也さんなど監督に育てられた俳優が発起人となり、6月12日、東京都内のホテルで開かれました。会場には、監督の作品で主演の三浦友和さん、松原智恵子さんなど多くの俳優や、平井知事、石谷副町長、福本昭夫さん(智頭宿まちづくり協議会など町内外の映画関係者約140人が出席して、監督の功績や人柄を偲びました。以下監督の素顔やご功績を改めて紹介しながら監督のご冥福をお祈りしたいと思います。

### 【監督の経歴】

西河監督は1918年(大正7年)智頭町慶所で生まれ、父親の仕事の関係で4才の時家族とともに上京されるまで智頭町で過ごしました。日本大学芸術科を卒業後、1939年(昭和14年)に松竹大船撮影所へ入社。松竹、日活を経てフリーとなり人生の大半を映画一筋に歩んでこられました。1952年(昭和27年)にデビュー作「伊豆の艶歌師」から1992年の「一杯のかけそば」(タシケント映画祭特別賞受賞)まで実に66本もの作品を生み出されました。

にわたっています。1961年の「草を刈る娘」は吉永小百合の主演第一作となり、その後石原裕次郎主演の「青年の椅子」(1962年)などを手がけられました。1970年代になると、リメーク作品(再映画化)としてもヒット作品が多く、

山口百恵、三浦友和のコンビで6作目の「伊豆の踊子」は多くの方がご覧になった代表作です。監督が描いてこられた映画の精神は、心の優しさであり、人を思いやる心、信じ合う心が作品の随所に表れています。



6月12日  
偲ぶ会での三浦友和さんの挨拶  
(於：新東京王プラザホテル)

【監督の素顔】  
監督が手がけた映画は、アクション映画から純愛、人情作品など幅広いジャンル

三浦友和さんの  
監督への想い  
私は、西河監督との出会いがなければ、今と全く違う俳優人生を送っていたと思います。あの時、三浦でいこうと

決断してくださった西河監督に感謝しています。  
西河克己映画記念館、鳥取県のますますの発展をお祈り申し上げます。  
ありがとうございました。

後世に語り継ぐべき逸材・映画監督「西河克己」  
西河克己氏が4月に亡くなったことを全国ユースで知り、地元だけでなく日本にこつての逸材を失ったことを残念に思う。心より氏の「冥福をお祈りしたい」。

智頭町出身の映画監督・西河克己氏が4月に亡くなったことを全国ユースで知り、地元だけでなく日本にこつての逸材を失ったことを残念に思う。心より氏の「冥福をお祈りしたい」。

西河克己映画記念館はこれからも智頭の宝、鳥取県の宝として輝くように活動していきます。皆様もぜひご協力をお願いします。



鳥取市在住  
徳持耕一郎  
(ワークショップ  
ザウルス代表)



福本昭夫  
(智頭宿まちづくり  
協議会映画部長)

人材が育つきっかけになることを望みます。  
西河克己映画記念館館長